

全農薬通報

No. 336

2022年（令和4年）12月28日

目次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・第304回理事会
- ・第305回理事会
- ・第57回通常総会、第306回理事会
- ・第307回理事会

◎行政からのお知らせ

- ・食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

◎全農薬ひろば

- ・ニホンスイセン



全国農薬協同組合



〒101-0047 東京都千代田区内神田 3-3-4 全農薬ビル

TEL：03-3254-4171

FAX：03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail：info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

2023年（令和5年）

- 1月 4日(水) 仕事始め
- 1月 5日(木) 農薬工業会賀詞交歓会（経団連会館、食事無）
- 1月 18日(水) 16:00～ 農薬工業会との情報交換会(執行部)
- 2月 1日(水) 2023年度 中国・四国地区会議(丸亀市)
- 2月 2日(木) 2023年度 近畿地区会議(大阪市)
- 2月 6日(月)～10日(金) 植物防疫研修会（一社）日本植物防疫協会会議室
- 2月 7日(火) 2023年度 北陸地区会議(金沢市)
- 2月 8日(水) 2023年度 東海地区会議(名古屋市)
- 2月 9日(木) 2023年度 関東・甲信越地区会議(文京区)
- 2月 14日(火) 2023年度 東北地区会議(仙台市)
- 2月 21日(火) 2023年度 北海道地区会議(札幌市)
- 4月 26日(水) 10:30～17:00 第308回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 7月～9月（開催日未定）農薬シンポジウム（山形県、大分県）
- 7月 27日(木) 13:30～17:00 安全協常任幹事会・情報交換会
- 9月 21日(木) 10:30～17:00 第309回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 10月上旬 植物防疫研修会
- 10月 24日(火) 13:30～15:30 監査会（理事長、監事）
- 10月下旬 第10回 農薬安全コンサルタントリーダー研修
- 11月 15日(水) 13:10～15:00 第310回理事会
16:00～ 農薬工業会 虫供養（理事長、事務局）
- 11月 16日(木) 10:00～19:30 第58回通常総会・第46回安全協全国集会
- 12月 13日(水) 10:30～17:00 第311回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 12月 14日(木) 10:30～12:00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

「植防関係団体」

- 5月 17日(水) 令和5年度 農薬工業会 総会
- 6月 6日(火) 令和5年度 日本くん蒸技術協会 総会
- 6月 9日(金) 令和5年度 日本植物防疫協会 総会
- 6月 12日(月) 令和5年度 全国植物検疫協会 総会
- 6月 15日(木) 令和5年度 農林水産航空協会 総会
- 6月 20日(火) 令和5年度 緑の安全推進協会 総会

組合からのお知らせ

1. 第304回理事会

開催日時 2022年9月21日(水) 15:00~17:00

開催形式 来所出席、リモート出席、書面審議

出席者 理事 18名中9名来所出席、6名リモート出席、3名書面審議

監事 3名中1名来所出席、2名リモート出席

事務局 2名出席

(理事長) 大森 茂 (副理事長) 栗原秀樹

(理事) 木幡光範、池田憲亮、山本真一、伊藤一貴、三枝徹也
中村哲郎、村上昭一、青木貴行、堅田充宏、宇野彰一、橋爪雅彦
田中公浩、喜多泰博、金井正和、安武広信、安部了一

(監事) 佐藤 剛、菊地正浩、鈴木健司



定刻になり、事務局より本日の会議出欠状況が報告され、理事 18名中9名来所出席、6名リモート出席、3名書面審議で理事会が有効に成立する事、監事3名中1名来所出席、2名リモート出席の旨が告げられた。



理事長挨拶

開会にあたり理事長より挨拶



(1) 議決事項

1) 2022 年度決算(案)に関する件

(利用分量配当(案)、出資配当(案)、特別追加奨励(案))

理事会資料に基づき事務局から事業分野別に説明し、承認された。

2) 組合員の加入・脱退に関する件

① 新潟県・山形県 吉田農事株式会社、東海物産株式会社

脱退

東海物産株式会社と吉田農事株式会社が東海物産株式会社を存続会社として合併するため脱退。

加入

東海物産株式会社 新潟支店、東海物産株式会社 山形営業所が組合への新規加盟となり、吉田農事株式会社の出資金は東海物産株式会社の出資金に振り替え、2022 年 10 月 1 日付の新規加盟となる。

② 京都府 中川薬品株式会社、株式会社 橋爪中川

脱退

2022 年 8 月 2 日付で株式会社 橋爪と中川薬品株式会社は株式会社橋爪中川を設立し、同年 10 月 1 日に中川薬品株式会社の農薬事業を設立会社に譲渡するため。

加入

株式会社 橋爪中川が組合への同年 10 月 1 日で新規加入

③ 兵庫県 株式会社ユーエスマイト、山陽薬品株式会社兵庫支店

脱退

株式会社ユーエスマイトが山陽薬品株式会社の 100%子会社となり、2023 年 1 月 1 日付で同社兵庫支店の営業所となるため。

④ 愛媛県 株式会社 三興化学工業所

脱退

株式会社 三興化学工業所 が 2022 年 9 月末を以て事業を廃止するため、2022 年 9 月 30 日付で脱退

組合員の加入・脱退について諮り、異議無く承認された。

3) 2023 年度事業計画(案)に関する件

理事会資料に基づき事務局から事業計画(案)について説明し、異議無く承認された。

4) 2023 年度安全協事業計画に関する件

理事会資料に基づき事務局より安全協事業費(教育情報事業費)収支予算(案)について説明し、異議無く承認された。

5) 第 57 回通常総会及び第 45 回全国集会開催に関する件

第 57 回通常総会及び第 45 回全国集会の開催に関する件について下記のとおりとすることを諮り、異議無く承認された。

- ・第 305 回理事会（総会前日の理事会）は出席が可能な現理事・監事の実出席とリモート出席で開催する。
- ・第 57 回通常総会は限られた人数で開催（出席が可能な理事・監事の実出席と事前書面審議）する。
- ・第 306 回理事会（総会の後半で開催する、役員改選の理事会）は出席が可能な新理事・監事の実出席とリモート出席で開催する。
- ・第 45 回全国集会は参集形態での開催ではなく、ウェビナー（Web 講演会）で情報の発信を行う形態

(3) 報告事項

1) 委員会報告

総務委員会 山本委員長

- ・全農薬ビルについて
- ・就業規則の見直し

本年 4 月に労働基準監督署提出・受理された。

経済活動委員会 木幡委員長

- ・共同購買事業は収益の柱であるそのポジションは継続させ、市場分析とシェア拡大策を検討していく。

教育安全委員会 橋爪委員長

- ・コロナ禍で人を集めにくい次年度の指導農薬講習会の進め方について、Web 講習会実施個所の拡大の検討を行い、農薬シンポジウムの開催内容について、継続して現地と協議していく。

IT・広報委員会 中村委員長

- ・受発注システムの利便性向上、受発注システムデータの有効活用、システム運用での物流の効率化を検討する。

役員選考準備委員会 村上委員長

- ・定款並びに役員選考規約に従い、地区推選・本部推薦を実施した。立候補の申し出も開示したが立候補者は出なかった。

2) その他

- ・全農薬ビル利活用について

執行部協議会における今後の方針についての協議内容の説明があった。

2. 第305回理事会

開催日時 2022年11月16日(水) 15:30~16:30

開催形式 来所出席、リモート出席、書面事前審議

出席者 理事 18名中来所出席 14名、リモート出席 1名、書面事前審議 3名

(理事長) 大森 茂 (副理事長) 栗原秀樹

(理事) 木幡光範、池田憲亮、山本真一、伊藤一貴、三枝徹也、
中村哲郎、村上昭一、青木貴行、堅田充宏、宇野彰一、
橋爪雅彦、田中公浩、喜多泰博、金井正和、安武広信、
安部了一

(監事) 佐藤 剛、菊地正浩、鈴木健司

定刻になり事務局より本日の出欠状況が報告され、理事 18名中、来所出席 14名、リモート出席 1名、

書面事前審議 3名で理事会が有効に成立する事、監事 3名にも来所出席いただいている旨が告げられた。



理事長挨拶

開会にあたり理事長より挨拶

(1) 議決事項

1) 第57回通常総会提出議案について

第1号議案 2022年度決算関係書類承認の件

第2号議案 2023年度賦課金の金額及びその徴収方法決定の件

第3号議案 2023年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

第4号議案 2023年度借入金最高限 額(案)決定の件

第5号議案 役員報酬額(案)決定の件

第6号議案 役員任期満了につき改選の件

第1号議案から第6号議案まで提出議案について諮り、異議なく承認された。

(2) 協議事項

1) 2023 年第 58 回通常総会・安全協第 46 回全国集会の日程・会場について
2023 年 11 月 16 日(木)海運クラブ での開催を予定している旨を確認
した。

2) 2023 年 地区会議の実施及び地区会議に代わる Web 研修会の準備について

- ・中国・四国 2 月 01 日(水) 丸亀市
- ・近畿 2 月 02 日(木) 大阪市
- ・北陸 2 月 07 日(火) 金沢市
- ・東海 2 月 08 日(水) 名古屋市
- ・関東・甲信越 2 月 09 日(木) 東京都
- ・東北 2 月 14 日(火) 仙台市
- ・九州 - Web 研修会(全農薬 HP 安全協ポータルより受講)
- ・北海道 2 月 21 日(火) 札幌市

実開催の場合も、出席者の制限や出席が出来ない組合員が出るのが想定さ
れ、昨年度・本年度に準備し受講した Web 研修教材(事務局手配教材、各地区手
配教材=地区会議議講演教材、指導農薬教材)を農薬ホームページの安全協ポ
ータルサイトにアップし、アンケートに答えて貰う手配を各地区に引き続きお願い
したい。

3) 全農薬ビル 今後の修繕計画について

- ・空調機器の更新
- ・照明設備の LED 照明設備への切り替え



3. 第57回通常総会

- (1) 招集日時 2022年10月3日(月)
- (2) 開催日時 2022年11月17日(木)10:00~11:30
- (3) 開催場所 全農薬9F会議室 (千代田区内神田3-3-4全農薬ビル)
- (4) 議題
 - 第1号議案 2022年度決算関係書類承認の件
 - 第2号議案 2023年度賦課金の金額及びその徴収方法決定の件
 - 第3号議案 2023年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件
 - 第4号議案 2023年度借入金最高限度額(案)決定の件
 - 第5号議案 役員報酬額(案)決定の件
 - 第6号議案 役員任期満了につき改選の件
- (5) 組合員数 191社(2022年9月30日時点)
- (6) 出席組合員数 146社(内 本人20社、書面審議結果事前提出126社)
- (7) 出席理事の氏名(18名中15名出席)
大森茂、栗原秀樹、木幡光範、池田憲亮、山本真一、伊藤一貴、村上昭一、
青木貴行、中村哲郎、宇野彰一、橋爪雅彦、田中公浩、喜多康博、金井正和、
安武広信
- (8) 出席監事の氏名(3名中3名出席)
佐藤 剛、菊地正浩、鈴木健司
- (9) 議長の氏名
村上 昭一
- (10) 議事録の作成に係る職務を行った理事の氏名
鈴木 敦(参事)
- (11) 開会
定刻に至り、事務局鈴木参事より本日の通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大の防止と、出席組合員の安全を最優先に考慮し、出来る限り少人数で開催し、事前に書面による審議結果を確認することとしたこと、結果出席組合員数は第57期末組合員数191社に対し、本人出席が20社、書面審議結果提出126社、合計146社であり、定款第41条の法定数を満たしているので、有効に成立する旨を報告し開会を宣言した。

大森 理事長より挨拶

本日は、お忙しい中、全農薬の総会に出席いただき、また書面事前審議をいただきありがとうございます。

全農薬第57期は、共同購買事業は、前年度実績対比約101%の売上予算468百万円の遂行に努めましたが、計画比96%、前年比97%の451百万円の実績となり、約17百万円の計画未達となりました。引き続き新規の取扱品目の検討を行い、組合員の皆様の事業に貢献できるように努力する所存です。引き続き組合員皆様のご協力をお願い致します。



教育情報事業は、「ひと声運動」媒体品の作成・配布、各支部において農薬危害防止運動月間に併せてポスターやのぼりを設置及び農家へのアンケートを実施し、農薬が安全かつ適正に使用、販売されるよう啓蒙活動に取り組みました。今後も技術力の向上により、技術サービスを中心とした農薬卸機能の強化に努めてまいります。

不動産賃貸事業は、2020・2022年度にテナントが退出し空室となっていた2フロアにテナントが入りました。今年度の事業収入は24百万円で、配賦費用負担後の事業利益は4百万円でした。昨年度・本年度開催の理事会での「全農薬ビルの有効活用・不動産賃貸事業の将来の方向付け」の協議により、全農薬ビルをメンテナンスしながら当面の間維持していく方針を確認しました。入居テナントへの安全安心なビル管理運営による安定した不動産賃貸事業の維持に努めて参ります。

以上の結果、賦課金等収入を含めた2022年度事業総利益金額は、27,802千円（前年対比77.6%、-8,030千円）、税引後当期純利益は、11,452千円（前年対比59.1%、-7,930千円）となり全農薬の事業全体として減益の結果となりました。

全農薬第57期の事業報告をさせて頂くにあたり、商系組織として業界内での評価の向上に向け決意を新たにすると共に、組合員各位の益々のご協力をお願い申し上げます。

(12) 議長選出

大森理事長から議長の選出を如何にするかと諮る。

理事長一任との声があり、大森理事長は愛知県 株式会社イノチオプラントケア 村上昭一氏を指名。

全員拍手をもって承認、村上議長が議長席につき、議事に入った。

(13) 議事経過の要領及びその結果

第1号議案 令和3年度決算関係書類承認の件

事務局鈴木参事が庶務関係、決算関係を事業報告書に基づき説明した。

次いで佐藤監事が次のような監査報告を行った。

村上議長から第1号議案について諮る。拍手をもって原案通り承認された。

第2号議案 2023年度賦課金の金額及びその徴収方法決定の件

1. 賦課金の額 本社加入 一組合員年額 8万円
本社加入かつ、支店、営業所加入 一組合員年額 3万円
本社未加入、支店、営業所のみ加入 一組合員年額 8万円
2. 教育情報賦課金の額 一組合員年額 3万円
3. 納入方法 2023年3月1日に預金口座振替するものとする。

村上議長から第2号議案について諮る。拍手をもって原案通り承認された。

第3号議案 2023年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

事務局鈴木参事が事業報告書に基づき説明した。

村上議長から第3号議案について諮る。拍手をもって原案通り承認された。

第4号議案 2023年度借入金最高限度額(案)決定の件

2023年度借入金最高限度額は5億円とする。

村上議長から第4号議案について諮る。拍手をもって原案通り承認された。

第5号議案 役員報酬額(案)決定の件

役員報酬額は800万円以内とする。

村上議長から第5号議案について諮る。拍手をもって原案通り承認された。

第6号議案 役員任期満了につき改選の件

村上議長より役員全員の任期が本総会終結をもって満了するので改選の必要がある旨述べ、定められた「役員選挙規約」に基づき立候補及び役員候補者推薦の届け出を募った結果が村上議長から第57期事業報告書に記載されている名簿に基づき、下記の通り報告された。



理事

木幡光範（北海道）	村上昭一（愛知県）	佐藤 剛（岩手県）
堅田充宏（岐阜県）	池田憲亮（秋田県）	金田敏明（大阪府）
菊地正浩（宮城県）	橋爪雅彦（和歌山県）	山本真一（福島県）
大森 茂（岡山県）	栗原秀樹（埼玉県）	田中公浩（広島県）
佐藤友紀（新潟県）	喜多泰博（香川県）	中村哲郎（石川県）
安武広信（熊本県）	鈴木健司（愛知県）	安部了一（熊本県）

監事

伊藤一貴（群馬県）	金井正和（愛媛県）	青木貴行（三重県）
-----------	-----------	-----------

村上議長から「役員候補者が定款に定められた定数以内であるので無投票で全員が当選となり、新役員が決定する」との報告があった。全員拍手をもって承認。

なお、役員全員はり理事会において就任を承諾した。

以上をもち第57回通常総会のすべての議案の審議を終了し、議長は暫時休憩を宣し、新役員による第306回理事会を開催した。

新理事による互選の結果、理事長・副理事長・執行部、を決定した旨、議長より報告された。

執行部

「理事長、副理事長」

理事長	大森 茂
副理事長	栗原 秀樹

「各委員長」

総務委員会	山本 真一
経済活動委員会	木幡 光範
教育安全委員会	橋爪 雅彦
IT・広報委員会	中村 哲郎

村上議長が「これもちまして本日の議案を全て終了しました。皆様のご協力を得て無事終了しました。誠に有難うございました。」とお礼を述べ、議長席をおりた。

以上をもち第57回通常総会のすべての議案を修了し、午前11時30分に閉会した。

（14）議案審議終了後の行事

組合員の慶弔報告

鈴木参事より、慶弔報告があった。

「弔事」下記の1名について黙祷を捧げた。

株式会社 金田商店 取締役会長 金田 守 様

諸表彰

鈴木参事より、諸表彰の報告があった。

<2022 年度支部別特別奨励表彰>

「売上伸長奨励」 上位5支部

1位 埼玉県、2位 福岡県、3位 北海道、4位 栃木県、5位 青森県

「売上高規模奨励」 上位5支部

1位 群馬県、2位 新潟県、3位 長野県、4位 埼玉県、5位 青森県

<組合役員・支部長等功労者表彰> (敬称略)

山陽薬品株式会社 三浦 洋

<組合員事業所永年勤続従業員表彰> (敬称略)

株式会社コハタ 岡田 武也、株式会社コハタ 伊藤 和幸、

株式会社コハタ 田邊 和恵、株式会社サングリン太陽園 久保 綾子、

第一アグリ株式会社 富山 健一、第一アグリ株式会社 小出 勝利

株式会社石沢商事 河原 智恵、日栄商事株式会社 蔵谷 充、

イノチオプラントケア株式会社 藤原 明文

東海物産株式会社 木村 守、東海物産株式会社 豊田 宏治、

東海物産株式会社 向井 雄一、東海物産株式会社 古市 会理、

東海物産株式会社 柳川 良子、株式会社山正 谷内 誠

山陽薬品株式会社 浅野 浩一、山陽薬品株式会社 難波 守、

日植アグリ株式会社 中島 和彦、グリーンテック株式会社 岸本 一浩、

グリーンテック株式会社 佐藤 敦子、グリーンテック株式会社 富園 ゆかり

第57回通常総会、議案審議後の行事終了時に栗原副理事長が閉会の挨拶を行った。



4. 全国農薬安全指導者協議会 第45回全国集会 オンライン講演会 (ウェビナー) 報告

全国農薬協同組合では毎年開催の全国農薬安全指導者協議会(安全協)の全国集会の重要な行事として組合員の資質向上、更には農薬メーカー等の賛助会員、業界関係者との情報交換の場として、講演会を実施しています。しかしながら、コロナ禍により一昨年、昨年は連続して中止せざるを得ない状況となっており、本年こそは講演会を開催したいとの想いと要望がありましたが、依然としてコロナ禍は先行きの見えない状況にあるため、本年の全国集会講演会はリアルタイム配信によるオンライン講演による開催といたしました。ご不便をおかけしましたが、多くの皆様にご理解いただき、213名の申込・参加をいただきました。

日 時：2022年11月17日(木) 13:30~17:00
(オンラインによるリアルタイム配信)

配信会場：アーバンネット神田カンファレンス 会議室(千代田区内神田3-6-2)
会場において、全農薬役員と事務局の計21名がリアル参加した。

開 会：13:30~13:50

・ 理事長挨拶

開会にあたり、大森理事長より挨拶をいただきました。

・ 来賓挨拶

ご来賓として会場へお出でいただいた、農林水産省消費・安全局安全管理課
農薬対策室長 楠川雅史様より講演会開催にあたりご挨拶を賜りました。



大森理事長

講 演：13:50~15:10(質疑応答含む)

演題 「みどりの食料システム戦略実現に向けて～
植物防疫の立場から～」

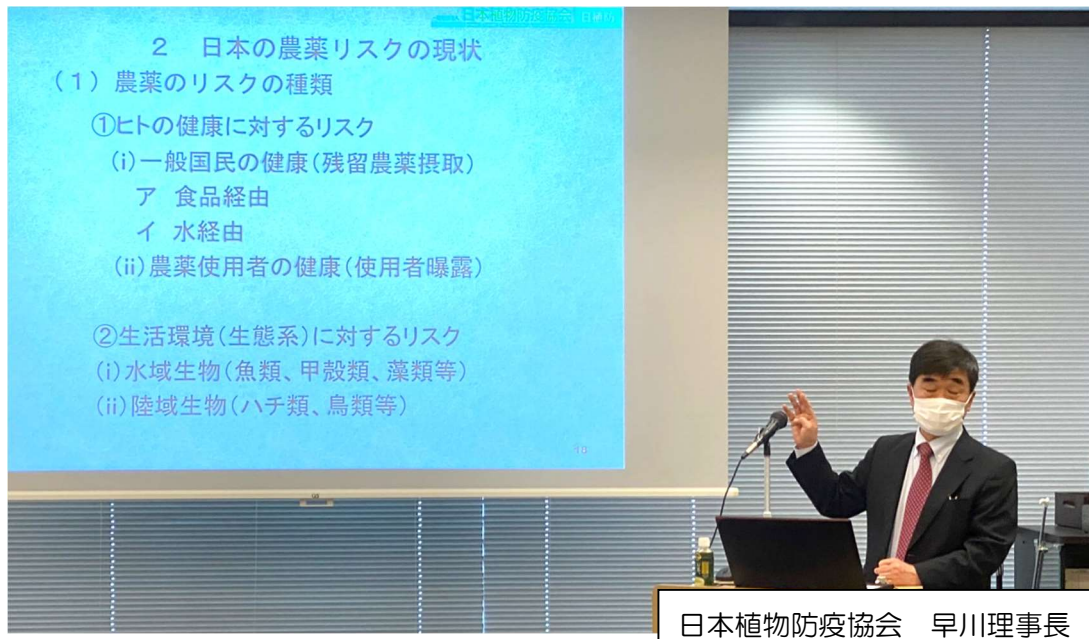
講師 一般社団法人 日本植物防疫協会
理事長 早川 泰弘 様

講演内容

早川理事長は農林水産省入省後、植物防疫行政に長く携われ、退官後は一般社団法人日本植物防疫協会理事長として、農水省の「みどりの食料システム戦略」策定にいち早く反応し、EUの「Farm to Fork 戦略」との対比やEUに



楠川農薬対策室長



2 日本の農業リスクの現状

(1) 農薬のリスクの種類

①ヒトの健康に対するリスク

(i) 一般国民の健康(残留農薬摂取)

ア 食品経由

イ 水経由

(ii) 農薬使用者の健康(使用者曝露)

②生活環境(生態系)に対するリスク

(i) 水域生物(魚類、甲殻類、藻類等)

(ii) 陸域生物(ハチ類、鳥類等)

日本植物防疫協会 早川理事長

おける農業と農薬の現状などを分析して、各地で自身の考えを公表しておられます。今回の講演ではEUと日本の農業と植物防疫の違い、農薬の安全性と重要性の観点から国の農業戦略である「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて方向を見誤ってはいけない点を詳細に説明されました。

国の農業政策である「みどりの食料システム戦略」に関し、植物防疫の立場より理解と知見を深めることが出来ました。日本の高温多湿の気象条件で発生する病害虫や、海外からの新たな侵入害虫に対して、農薬を使用して安全安心な農作物を国民に届けるために、組合員が大事な仕事をしていることを今回の講演より確認できたと存じます。

講演：15：20～16：40

演題 「これからのプロ農家は“作る”だけでなく、ファクトを“発信”しなければならない」

講師 トゥリー&ノーフ株式会社 代表取締役 徳本 修一 様

講演内容

徳本修一氏は2012年IT企業から転身し、農業生産法人トゥリーアンドノーフ株式会社の代表取締役に就任されました。現在は、鳥取県鳥取市の55ヘクタールの農地で、コメ・豆類の生産を行っています。科学的視点を重視し、IT・テクノロジーを積極的に活用しながら中長期的には1,000ヘクタール以上の農地集積を目論み、海外への展開にも着手しておられます。巷に溢れる農業の情報は現場の実態や事実と乖離していると感じ、2020年3月YouTubeチャンネル「農業法人トゥリーアンドノーフチャンネル」を立ち上げ、現場に立つプロ農家目線でのリアルな情報を定期的に発信されています。

農薬の必要性和安全性に関しては、農薬への知見を持たない消費者・反農薬の考えを持



トゥリー&ノーフ株式会社 徳本 代表取締役

つマスコミに対する、農薬への知見を持つ科学者・関係者との議論に終始しがちであるが、大規模農業生産者の立場からの情報発信が少ない中で、大規模農業生産者による日本の農業の将来のあり方、農薬の有用性や安全性の情報発信の必要性の訴えは新鮮であり、組合員へ大きな刺激となったと存じます。

閉 会：16：40～16：50

- 委員長（安全協会長）挨拶


閉会にあたり、橋爪会長より挨拶をいただきました。



橋爪 委員長（安全協会長）

5. 全農薬・安全協 第45回全国集会ウェビナーに関するアンケート結果

参加申し込みいただいた215名の皆様に、ウェブアンケート（回収期間：11月21日～12月6日）を実施させていただきました。アンケート開始が講演会後土日を挟んで5日後と少し視聴後の興奮が冷めてしまったのではと懸念がありましたが、多くの方よりポジティブな感想を多くいただきました。ご回答ありがとうございました。結果につきましては、講師の皆様へもお伝えしております。

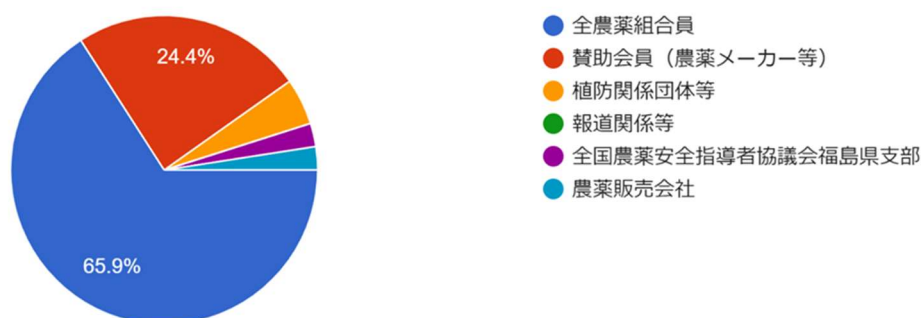


2022年11月17日開催安全協ウェビナーに関するアンケート

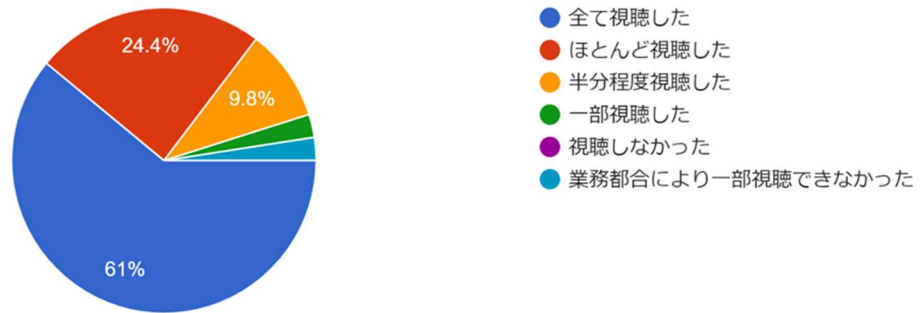
全農薬では毎年開催の安全協全国集会の重要な行事として組合員の資質向上の場として、講演会を実施致しております。コロナ禍が依然として先行きの見えない状況にあるため、本年の全国集会講演会はリアルタイム配信によるオンライン講演（ウェビナー）による開催といたしました。

ご所属は以下のうちどれにあたりますか（必須）

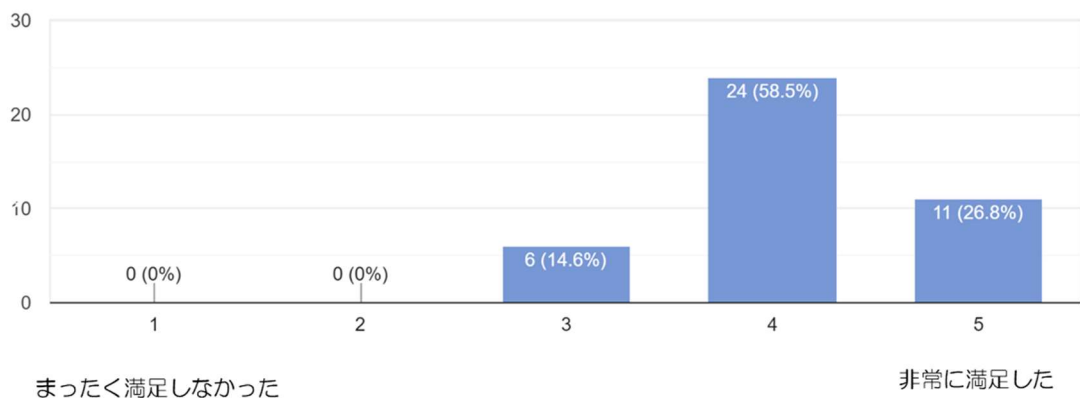
41件の回答



ウェビナーのご視聴は以下のどれにあたりますか
41件の回答



講演会はどのくらい満足されましたか
41件の回答



ウェビナーへのご意見

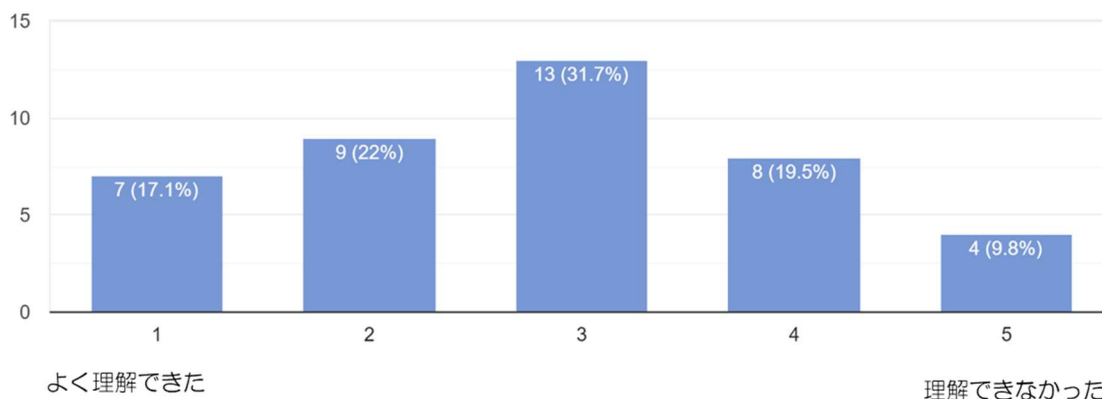
設問：Web 講演会（ウェビナー）はリアルな講演会と比べるといかがでしょうか

- 音声も聞きやすく、リアルな講演会と同様に視聴することができました
- 臨場感は感じられないものの、リアルよりも資料がはっきり見え、声もよく聞こえて理解が深まったと感じた。
- 迫力感は若干欠ける場面がありますね。
- 画面も見やすく、集中して聴けてとても良いと思います。むしろ移動の時間がないので参加がしやすかったです。
- Web だと質問が出来ないので、会場で聞かせて頂けましたら有難いです。

- 会場参加の制約がなく、利便性が高く参加しやすい。一方、リアルに比べ質疑が少なめかと思われます。
- 当日や前日のスケジュールが厳しくても、参加することができる所が良い。
- まったく遜色ありません。
- 講演会について、聞かせていただく分には web 参加もありと感じました。話す方は聴衆の理解度や賛否の表情を感じることができず大変だと思います。
- やや物足りない
- 画質、音声もよく快適でした。
- 画質が若干よくなかった
- 音声等も聞き取り易く講演会と特段、遜色なかった
- 音声も十分聞こえており特に問題はありませんでした
- 同等と考えます。
- 必要な情報だけ集中できて非常によかった、別な処理しながら聞いたので時間に無駄がない。
- どこにいても視聴できることが良かったです。
- 聞きやすかったです。
- 気軽に講演に参加でき便利です
- リアル講演会と遜色なく視聴出来ました
- リアルな講演会と比べれば若干劣るが、特に問題なく視聴できました。
- 集中して聞きにくかった。
- 参加しやすくなり、内容も集中して聴けた。
- 遠距離なメンバーには移動の時間やコストを考慮すると有意義な講演であった。
- 移動の必要がないため交通費や宿泊費がかからないのが良い。一部見えづらい画面もあったので、資料の配布もしくは別画面での表示もしていただき良かった。
- 移動等のロスもなく、集中して参加できた。
- 講演を聞くのには WEB でも十分だと思います。
- WEB 視聴に対する「慣れ」もあり、違和感なくだいぶ浸透してきたように思います。
- 資料が見つらなかったので、できれば事前に資料をいただき良かった。
- 表示された資料の文字がぼやけて見えなかった。ぼやけた画面を見るのが苦痛に感じた。資料をダウンロードできると改善できると思います。

講演 I

講演 I 「みどりの食料システム戦略実現に向けて」の講演内容について
41件の回答



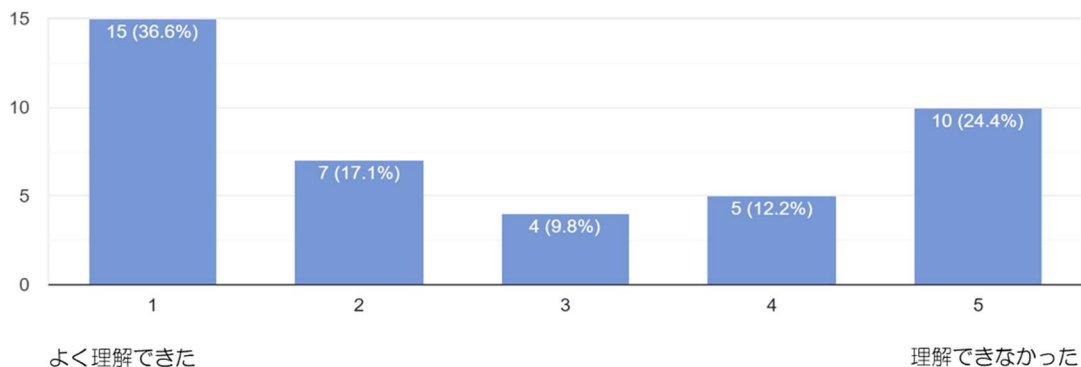
設問：講演 I についてご意見・ご質問があればご記入ください

- 計画・戦略に対して実装面が課題であることが理解できました。
- 幅広く、科学的な視点からわかりやすいご講演でした。コロナ禍やウクライナ危機等で世界的にエネルギー、食料・肥料・飼料等の供給不安、価格高騰が起こっている中、今後、食料安全保障と環境対策をどのようにバランスをとって進めるか関心があります。
- 早川理事長の懸念する事項には全く同感であり、今後ともイノベーションありきの「空想的な」国の戦略に、現場を抱える農薬メーカーとして一部同調するも注意深く行動してゆきたく存じます。
- 2050年目標農薬使用量△50%の正当性が一人歩きしないよう業界として理論構築すべき。講師のコストの視点からは理解する。
- 農薬の新規開発率が国内メーカー57%で海外メーカーに引けを取らない現状に敬意
- みどりの食料戦略の成り立ちから政策の方向などがよく理解できた、今後の農薬業界として本戦略へ対応するために参考となった。
- 正直難しい内容であったと感じましたが、今後の戦略でもありますのでしっかり理解をして現場での対応に努めるようにしたいと思います。
- 役所関係の内容なためわかりづらい面があった。
- みどりの食料戦略をざっくりばらんな観点からお話いただいたので、より現場に近いご意見を聞いたのでよかったですと思います。
- 如何に日本の農薬登録の安全性が優れているか再認識できました。また、それを裏付けるデータを拝見できたことはとても勉強になりました。
- メーカーとして進むべき方向性はよく整理されていて理解できる内容であった。が、そもそも何故こうした戦略が業界をとりまく各団体への相談もなく進んでしまったのか…。メーカーとしても考えさせられるところであります。

講演Ⅱ

講演Ⅱ「これからのプロ農家は”作る”だけでなく、ファクトを“発信”しなければならない」の講演内容について

41件の回答



設問：講演Ⅱについてご意見・ご質問があればご記入ください

- これからの日本での農業のあり姿が良く理解できました。
- 農業の法人化、大規模化が必要になりつつある中、成功されている方の意見、考え方を聞く事ができ、非常に参考になりました。
- 感心することや同感することが多く、思ったことをいかに上手く伝えるかということを考えさせられました。
- 世の中すごい人もいるものです。一つの農業経営の形であり、インフルエンサーとしての社会的役割も担っておられると存じますので、一層のご活躍を期待しております。
- 戦後の自作農主義からやっと未来が見えてきた。すっきりした。
- 業界関係者以外の方、特に成功されている生産者から農薬のもつ本来の技術的評価を発信されているのはとても重要だと感じた
- とても魅力的な講演でした。徳本さんのスケール規模感が違うことに驚きを感じました。メーカーは発信する情報よりも、より現場に近いインフルエンサーが発信することにより事実感が増すと思いますので、このような方が発信する情報もキャッチするように心がけたいと思いました。
- 力強く伝えたい事で溢れていた、面白くて為になったしこれからの農業の革新についていた。
- 将来の農業につながる（光）がみえる。
- 貴重な講演でした。色々、勉強になりました。
- 農業生産者の将来性を感じることでできる面白い内容だった。
生々しい現場の内容なため面白く聞かせて頂いた。有意義な内容であった。
- これからの農家の在り方について考えさせられる内容でした。とかく暗い話題の多い中前向きな希望のあるお話で聞いていてわくわくした気分になりました。

質問と回答

徳本様への質問が3つありました。徳本様より回答をいただいておりますので、掲載させていただきます。

質問1：先進的な経営者の視点に直接触れることができ、非常に有意義なご講演でした。多くの生産者の方々や消費者の方々に、科学的な正しい理解を持っていただくために、作物保護業界、農薬業界へ望まれるものはありますでしょうか。

回答：受け身になるのではなく、プロ農家自身が影響力を持ち、日々感じている課題や問題点を言語化し、政治や社会に発信することがまずは重要だと考えています。

質問2：弊社は機能性展着剤（アプローチBI、ドライバーなど）の販売を積極的に勧めています。展着剤についての意識または実際にご使用している場合は感想や展着剤に対する期待などご意見をお願いします。

回答：展着剤については、現在は使用していませんが、少量散布で効果が持続するような剤は興味があります。

質問3：ドローンや他のセンシングシステムをご活用している場合は具体的にどの場面でご活用されているかご意見を聞かせください。また、今後はどのようなセンシング技術に期待されていますかお願いします。

回答：ドローンは薬散や播種で状況に応じて使用しています。土地利用型農業におけるドローン、センシングは農地集積が進まない则と本来のパフォーマンスが発揮できないので、今後は超大型農業法人の台頭に伴い、ニーズも高まってくると思われます。個人的には、湿害対策で、地下水位の高さや土壤水分量がセンシング出来る技術があれば興味があります。

農薬の安全使用・取扱いに関するアンケート（2022年度）

最終結果

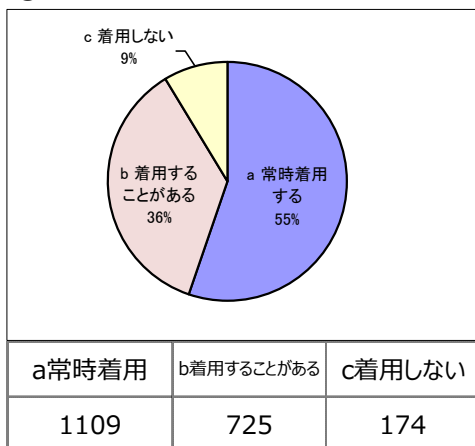
〈農家向け〉

回答者数

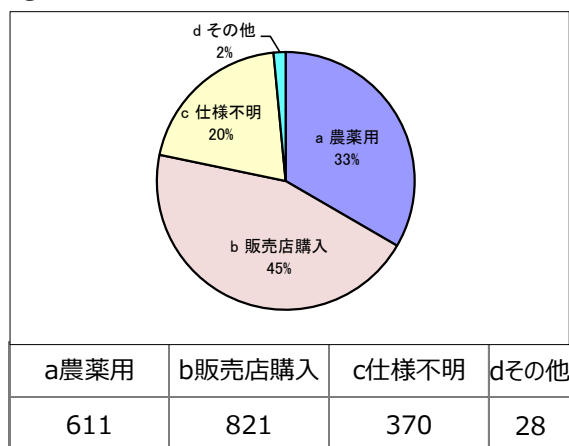
1979

1. 農薬散布時における以下の装備の着用について

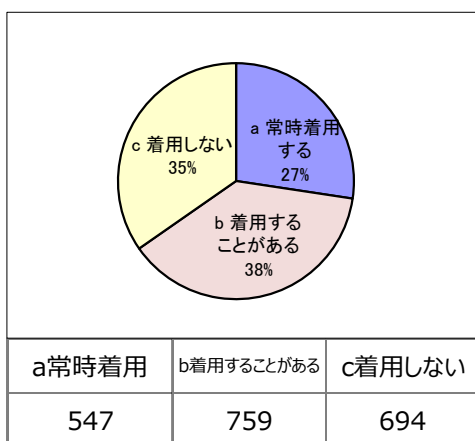
① マスク



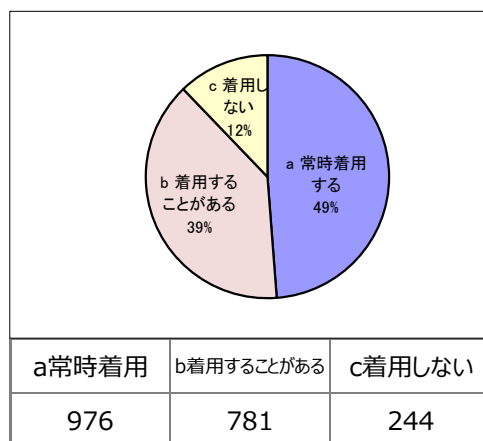
①-2 マスクのタイプ



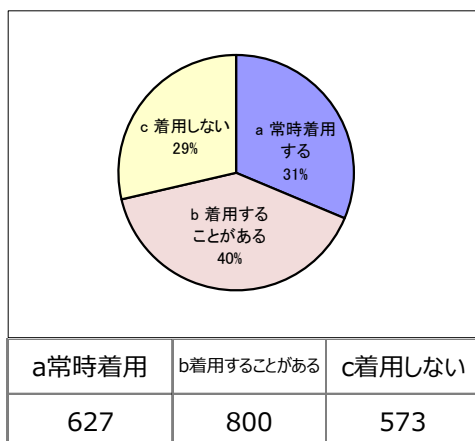
② 防護メガネ



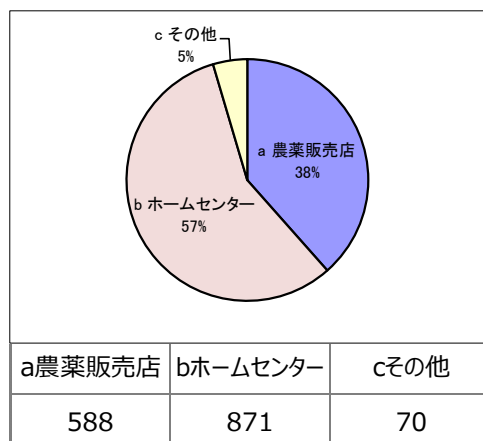
③ 防水手袋



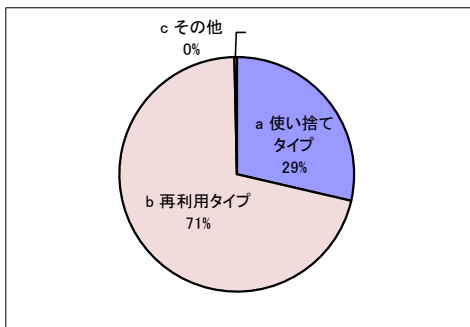
④ 防除衣



④-2 防除衣購入場所

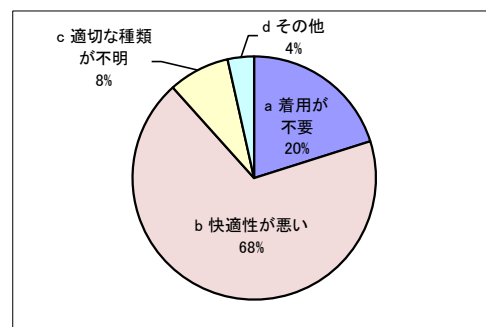


④-3 防除衣のタイプ



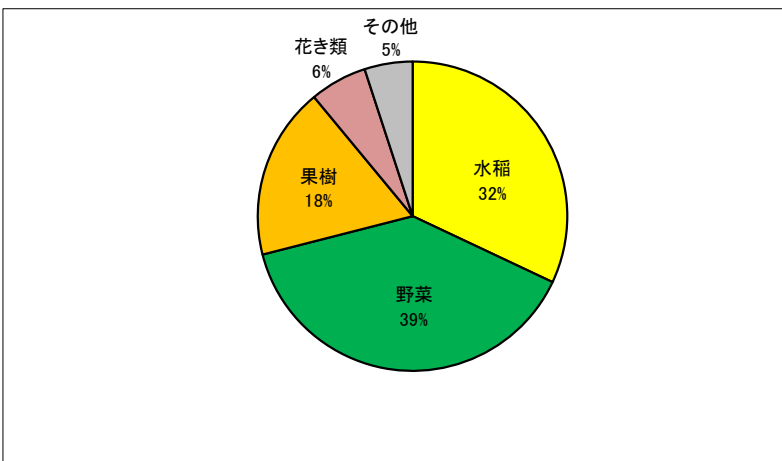
a 使い捨て	b 再利用	c その他
431	1070	5

④-4 なぜ着用しなかったのか



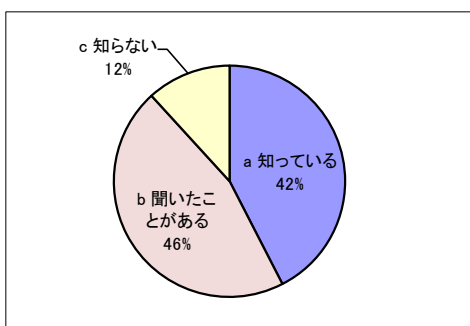
a 不要	b 不快	c 種類が不明	d その他
188	637	76	33

⑤ 主として農薬を散布する作物について



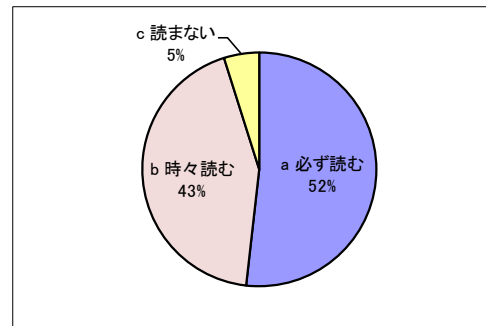
a 水稲	32%
b 野菜	39%
c 果樹	18%
d 花き類	6%
e その他	5%

2. 農薬事故理由について



a 知っている	b 聞いたことがある	c 知らない
851	918	236

3. 使用上の注意のラベル確認



a 必ず読む	b 時々読む	c 読まない
1041	871	98

7. 令和4年度植物防疫地区協議会（植物防疫ブロック会議）

(1)北海道・東北地区植物防疫協議会

開催日時及び場所

1日目 令和4年11月21日（月）13:30～17:00

全体会（JAビル宮城大会議室）

- ・消費・安全局農産安全管理課農薬対策室所管事項
- ・消費・安全局植物防疫課所管事項 等

2日目 令和4年11月22日（火）9:00～12:00

植物防疫分科会（JAビル宮城大会議室）

農薬分科会（仙台合同庁舎B棟会議室）

13:00～15:00

植物防疫分科会（JAビル宮城大会議室）

全農薬参加者：黒岩 博徳（株）ケーエス、菊池理事代理）

(2)関東地区植物防疫協議会

開催方法：リモート会議（Webex Meeting によるWeb 会議）

開催日時

1日目 令和4年12月6日（火）10:00～16:00

1 情勢報告

- (1) 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室
- (2) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター
- (3) 関係機関

2 全国共通議題

- (1) 農薬危害防止運動の総括・検証
- (2) 蜜蜂被害対策
- (3) 再評価などを通じた作業業者やミツバチに係る被害防止方法等に関する指導

3 その他

2日目 令和4年12月7日（水）10:00～16:00

1 情勢 報告

- (1) 消費・安全局植物防疫課
- (2) 植物防疫所

2 スタートアップ「(株)農研植物病院®」(仮称)の事業化へ向けた活動
(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)

3 総合防除に係る技術紹介

4 総合防除について

(1) 総合防除計画策定状況

(2) 総合防除取組事例

5 その他

全農薬参加者：佐竹邦夫・渡辺一義（㈱栗原弁天堂、栗原副理事長代理）、
倉品壮一郎（カネコ種苗㈱、伊藤理事代理）、植草技術顧問

(3) 植物防疫北陸地区協議会

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

開催日時：令和 4 年 11 月 29 日（火） 9：00～17：00

【午前（全体会議）】 9：00～10：20

- ・植物防疫に関する情勢報告等
- ・農薬に関する情勢報告等

【午後（分科会）】

- ・植物防疫関係意見交換 13：10～14：50
- ・農薬関係意見交換 15：00～17：00

議題

- (1) 植物防疫・農薬に関する情勢報告
- (2) 令和 4 年度植物防疫業務について
- (3) 令和 4 年度農薬関係業務について
- (4) 植物防疫業務、農薬関係業務に関する意見交換等

全農薬参加者：森下直樹（㈱日栄商事、中村理事代理）

(4) 東海・近畿地区植物防疫事業検討会

開催方法：対面及び Web

開催日時

1 日目 令和 4 年 11 月 24 日（木）

1 開会（会場：松の間）（13:30-13:45）

スケジュール等の案内

挨拶：東海農政局消費・安全部長

2 全体会議（会場：松の間）

- (1) 植物防疫を巡る情勢（植物防疫課）（13:45-14:25）
- (2) 植物検疫に係る情報提供（植物防疫所）（14:25-14:35）
- (3) 農薬行政を巡る情勢（農薬対策室）（14:35-15:15）
- (4) 農薬登録等に関する情報提供（FAMIC）（15:15-15:25）
- (5) 農研機構からの情報提供（15:35-15:55）

(6) 関係団体からの情報提供 (15:55-16:40)

(7) 全体質疑 (16:40-17:00)

2日目 令和4年11月25日(金)

3 分科会 (9:00-11:00)

① 植物防疫分科会(会場:松の間)

ア 今年話題となった病害虫に関する意見交換

イ 植物防疫法の改正に関する意見交換

ウ その他

② 農薬分科会(会場:竹の間)

ア 農薬危害防止運動の総括・検証

(都道府県独自の目標設定と取組の検証)

イ 蜜蜂被害対策(情報共有に関する取組状況)

ウ 再評価などを通じた作業やミツバチに係る被害防止方法等に関する指導

4 全体会議(会場:松の間)

全体質疑 (11:10-11:40)

5 試験研究機関からの総評

総評:農研機構植物防疫研究部門 (11:40-11:50)

6 閉会

挨拶:東海農政局消費・安全部農産安全管理課長 (11:50-閉会)

全農薬参加者:飯島祐平(株山正、堅田理事代理)

(5)植物防疫中国四国地区協議会

開催月日

令和4年12月1日(木) 13:30~17:00(全体会議、各分科会)

令和4年12月2日(金)参加者の1名に発熱があり、2日目を延期

令和4年12月21日(水)リモート会議により2日目を開催

開催場所:岡山第2合同庁舎 2階 共用第2会議室

(岡山市北区下石井1丁目4番1号)

議題

<全体会議>

(1) 植物防疫行政を巡る最近の情勢について

(2) 農薬管理行政を巡る最近の情勢について

(3) 植物検疫行政を巡る最近の情勢について

(4) 全体討議

(5) 関係団体からの情報提供

(6) その他

<分科会>

【植物防疫分科会】本年度の病害虫の発生状況及び防除について

【農薬分科会】農薬適正使用指導、農薬による蜜蜂被害防止について

上記予定で1日目を開催となったが、1日目終了後、出席者から、夜に39℃の発熱との連絡があり、2日目の日程はすべて中止となりました。

全農薬参加者：大森 理事長、2日目（リモート会議） 植草 技術顧問

(6)植物防疫九州・沖縄地区協議会

開催月日

令和4年11月17日（木）13：30～17：00（各分科会）

令和4年11月18日（金）9：00～12：00（全体会議）

開催場所：

作物・農薬 分科会 かごしま県民交流センター

全体会議 TKP ガーデンシティ鹿児島中央

議 題

<全国共通議題>

(1) 農薬危害防止運動について

- ・令和4年度農薬危害防止運動の取組
- ・農薬危害防止運動に係る取組表
- ・各都道府県における農薬危害防止運動に係る取組

(2) 各都道府県における蜜蜂の被害防止に係る取り組みについて

- ・各都道府県における蜜蜂の被害防止に係る取組

(3) 住宅地等における農薬使用について

- ・「住宅地等における農薬使用について」に係る取組
- ・都道府県が管理する施設における住宅地通知に係る取組

<地区議題>

(4) 一般家庭からの不要農薬の回収方法について

(5) インターネット中心の個人農薬販売者に対する指導について

(6) スクリミングガイ駆除目的の椿油かす使用に対する対策・指導について

(7) その他

全農薬参加者：神岡秀年（グリーンテック㈱、安部理事代理）

8. 第98回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント資格） 報告

安全協農薬安全コンサルタントの資格試験となる植物防疫研修会（日本植物防疫協会主催）は、今年度の第98回は10月3日（月）から7日（金）の日程で、日本植物防疫協会を会場に対面にて開催された。新型コロナウイルスの影響により、2020年後期は中止、2021年2月開催の第95回から今年2月開催の第97回までは、オンデマンド方式による開催となっていたが。今回は久しぶりに一堂に会して行う本来の方式で開催された。

この研修会は全国農薬協同組合、農薬工業会の関係者及び植物防疫に携わる方々が受講し、今回は全国から51名が受講し、このうち全農薬組合員からは25名の受講となった。

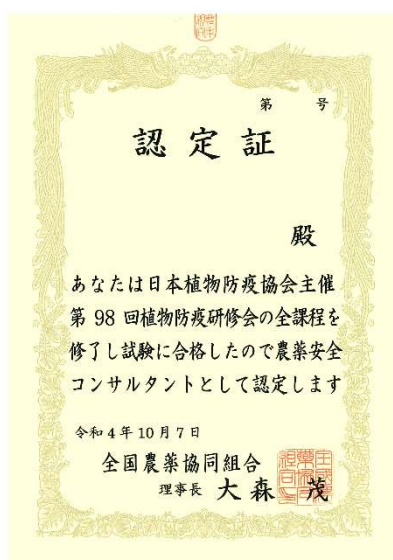
開催日時：令和4年10月3日(月)～10月7日(金)

研修内容：植物防疫法や農薬取締法、農薬の適正使用、農薬の安全性評価、病害や害虫の総論および作物別の各論、薬剤の知識として殺菌剤、殺虫剤および除草剤・植物成長調整剤の総論、農薬の施用技術、航空防除に関する講義。

これまでと同様のカリキュラムを組み、最新の情報を加えた内容とした。

講師：農林水産省消費・安全局の担当官、農林水産消費安全技術センター(FAMIC) 農薬検査部の専門官、農研機構の各部門の専門家、薬剤に関する内容については、農薬会社や日本植物調節剤研究協会の専門家。

この試験結果に基づき、合格者には日本植物防疫協会理事長名による「修了証」並びに全国農薬協同組合理事長名により「農薬安全コンサルタント認定証とバッヂ」を授与した。



9. 日本植物防疫協会主催シンポジウム 報告

「新しい時代に向けた病害虫防除体系を考える」

開催日時：2022年9月20日（火） 教育会館にてハイブリッド開催

参加者：植草 秀敏 技術顧問

日本植物防疫協会は2022年9月20日に、シンポジウム「新しい時代に向けた病害虫防除体系を考える」を開催（ハイブリッド）し、国や都道府県の行政、試験研究機関、普及指導機関、農薬企業、大学、生産者など140名のリアル参加、約700名がオンラインにより参加した。

1. 理事長挨拶

開会に際して、早川理事長より、「これまで防除指針・防除暦が現場で活用されてきた。あらためて防除指針・防除暦の意義と役割は何か、進展が著しい診断・防除に関する新技術がこの中でどのように活用できるのか、新しい時代に向けた病害虫防除体系はどうあるべきかについて考えるために、また、今後の防除技術・防除体系を「省力化と低コスト化の両立」という方向性ですすめるため、本日のシンポジウムが一助にもなることを祈念する。」と挨拶があった。

2. 講演

(1) 「我が国の植物防疫の在り方と展望」

農林水産省消費・安全局植物防疫課防疫対策室 羽石洋平氏

有害動植物の侵入・蔓延リスクの高まりから、輸入検疫での水際対応の強化、国内検疫での侵入病害虫の早期発見・早期防除、薬剤抵抗性の発達と環境負荷低減に係る輸出検疫体制の整備のため植物防疫法の一部改訂を行った。国や研究機関、農業関係者の連携、協力が不可欠となることについて講演された。

(2) 「福岡県の水稲栽培における病害虫防除体系の考え方と今後の方向性」

福岡県農林業総合試験場 清水信孝氏

防除体系を策定するにあたり、防除適期の設定、コストや使い勝手からの農薬の選定、育苗箱剤との防除体系、効率的・効果的な防除はもちろん、高密度播種育苗や直播栽培、生産者の多様な条件に対応できているかを重視している。

化学農薬だけに依存しない防除体系の構築も重要な視点となる。水稲栽培における総合防除技術として大幅な薬剤使用量の低減は難しい。今後、抵抗性品種の導入、育苗箱剤のローテーション、飛来性害虫の海外の薬剤感受性動向の把握など精度の高い情報が必要となる

(3) 「群馬県の野菜・特産作物栽培における病害虫防除体系の考え方と

今後の方向性」

群馬県農業技術センター 池田健太郎氏

研究成果・最新の研究報告・現場での実証から防除指針を作成し、マニュアル

や個別の技術集を作成して、農家に提案している。

今後、圃場空撮ドローン、経営管理アプリ、筆ポリゴン等の位置情報等の技術を活かし、これらのデータから適切な防除技術の展開が必要となる。

(4)「これからの病害虫防除体系において重要な視点」

元国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 本多健一郎氏

病害虫防除の現場が直面する様々な問題を解決し、生物多様性への悪影響を回避するために IPM を導入する意義がある。IPM に基づいた防除体系を構築する際には、病害虫による経済的被害と防除コストのバランスを意識することが必要である。

(5)「今後の農薬開発の方向性」

住友化学株式会社 河西康弘氏

農薬には、ヒトへの安全、環境への優しさ、農業生産（省力化・経済性）が求められているが、開発の確率は極めて低い。並行して持続可能型製品・技術の開発を目指し、天然物由来などの微生物農薬、植物成長調整剤、根圏微生物資材などのバイオリショナル（BR）製品ポートフォリオの拡充を目指している。今後、化学農薬・BR 両輪での持続可能な製品・事業を推進していく。

(6) 総合討論

総合防除について様々な意見が出され、現状ある総合防除の防除体系への組み込み方、また新しい防除技術や化学農薬の新たな使用方法についても更にメニューを増やすことが必要と総合討論を締めくくった。

10. 農薬安全コンサルタントリーダー研修会 報告

一昨年はコロナ禍により中止を余儀なくされたが、昨年度は研修形式を変えメディア研修として実施された。今年度も引き続き昨年同様にメディア研修形式として、2022年10月17日（研修用動画・テキスト郵送、到着後開始）～11月4日の期間で開催され終了したので報告します。

開催目的

農薬安全コンサルタントの技術の向上と商系組織の技術販売体制の強化ならびに組合活動の活性化を図るために農薬安全コンサルタントリーダーを養成する。

開催形式

メディア研修：研修動画を記録した媒体（DVD2枚を送付）を視聴し受講
修了試験：試験会場へ集合して実施

開催日時

研修視聴期間：2022年10月17日(月)～11月3日(木)

修了試験：2022年11月5日(金) 1回目 11:00～12:00

2回目 14:00～15:00

試験会場：全農薬ビル9階会議室

受講者

25名

研修実施方法

1. 研修資料：各講義資料（研修動画記録媒体、各講義テキスト等）を郵送。
2. 受講（視聴）方法：受講者へ郵送されたDVD（MP4ファイルとして各講義動画が記録）研修動画をパソコンで一定期間視聴し受講。
3. 修了試験：11月5日(金)午前の部（13名）、午後の部（12名）
修了試験前に研修動画記録媒体（DVD）を返却。
午前と午後に分かれて全農薬会議室において修了試験を行った。

試験結果

平均点：88.2点

最高点：100点

最低点：70点

結果：25名全員合格

試験の可否については、
後日通知書をお送りした。



配布した各種講義テキストと講義動画 DVD

11. 第307回理事会

開催日時：2022年12月14日(水) 15:00~17:00

開催形式：ハイブリッド会議（リアル・リモート・書面混合会議）

開催場所：全農薬ビル 9階会議室

出席者：理事18名中 来所出席12名、リモート出席3名、書面審議3名

来所、リモート出席

（理事長）大森 茂

（理事） 木幡光範、佐藤 剛、菊地正浩、山本真一、佐藤友紀、中村哲郎、
鈴木健司、村上昭一、金田敏明、橋爪雅彦、田中公浩、喜多泰博、
安武広信、安部了一

（監事） 伊藤一貴、青木貴行、金井正和

書面審議

（理事） 池田憲亮、栗原秀樹、堅田充宏

定刻になり事務局より本日の出欠状況が報告され、理事18名中15名の出席（リモート出席含む）、書面審議3名で、理事会が有効に成立する事、監事3名に出席いただいている旨が告げられた。

議事経過

理事長挨拶

開会にあたり理事長より挨拶

(1) 議決事項

1) 2023年度購買事業価格及び諸条件の件
取扱品の価格変更が報告された。

1号議案について、全員異議無く承認された。

(2) 協議事項

1) 2023・2024年度の各委員会の体制

総務委員会： 山本委員長、村上副委員長、鈴木健司副委員長、
安部委員、金田委員

経済活動委員会：木幡委員長、伊藤副委員長、田中副委員長、青木委員、
金井委員

教育安全委員会：橋爪委員長、菊地副委員長、安武副委員長、
木幡委員(兼務)、池田委員、佐藤友紀委員、
青木委員(兼務)、金井委員(兼務)

IT・広報委員会：中村委員長、喜多副委員長、堅田委員、佐藤剛委員



2) 2023 年度地区会議の実施について

2023年度地区会議日程表

北海道地区	2023年2月21日（火） 9：30～16：30	札幌商工会議所
	〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目	tel.011-231-1355
東北地区 （青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島）	2023年2月14日（火） 11：00～16：00	仙台ガーデンパレス
	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-5	tel.022-299-6211
関東・甲信越地区 （茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野・新潟）	2023年2月 9日（木） 11：00～16：30	東京ガーデンパレス
	〒113-0034 東京都文京区湯島1-7-5	tel.03-3813-6237
北陸地区 （富山・石川・福井）	2023年2月 7日（火） 13：00～17：00	石川県地場産業振興センター 新館 第1 2 研修室
	〒920-8203 金沢市鞍月2-20	tel.076-268-2010
東海地区 （静岡・愛知・三重・岐阜）	2023年2月 8日（水） 13：00～16：30	メルパルク名古屋
	〒461-0004 名古屋市東区葵3-16-16	tel.052-937-3665
近畿地区 （滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）	2023年2月 2日（木） 13：00～16：30	大阪ガーデンパレス
	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-3-35	tel.06-6396-6211
中国・四国地区 （鳥取・島根・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・高知）	2023年2月 1日（水） 11：00～16：30	オークラホテル丸亀
	〒763-0011 香川県丸亀市富士見町3-3-50	tel.0877-23-2222
九州地区 （福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）	※中止	

12月28日時点の日程予定表（理事会開催12月14日より変更あり）

出席が出来ない組合員が出ることも想定し、

農薬コンサルタントリーダーになるためのポイント取得について、地区会議出席者は研修受講と農試局挨拶視聴で2ポイント取得、全農薬ホームページ安全協ポータルサイトに載る地区準備の研修科目受講と事務局手配農水省教材受講で2ポイントが取得出来るようにする。

3) 2023 年度行事日程(案)について

本通報 P2 のとおり



(3) 報告事項

1) 2023・2024 年度全農薬ビルの修繕について

- 空調機器の更新
- 照明設備の LED 照明設備への切り替え

全農薬ビルの今後について、執行部協議会・総務委員会・理事会で協議を重ね、必要な補修をしながら当面の間維持していくことを確認している。

現在ビル外壁北側（JR 神田駅側）の補修工事を実施しているが、2023・2024 年度中に東京都の補助金を活用し、省エネ効果の高い空調設備への更新（通常の更新時期が 12－13 年のところ 28 年使用）、同様の効果がある照明設備の LED 照明への切り替えを実施する。

空調機器更新、LED 照明への更新共に省電力効果が大きく、毎年の償却額より省エネルギー効果金額の方が大きいことが確認できた。

空調機器も LED 照明機器も値上がり基調は続いており、東京都の補助を含め早い確なタイミングでの更新をすべしが出席役員の意見であった。

12. 全農薬受発注システム利用メーカー協議会第13回総会

開催日時：2022年12月15日(木) 10:30-11:50

開催場所：全農薬会議室（ハイブリッド会議）

出席者：石原バイオサイエンス(株)、科研製薬(株)、サンケイ化学(株)、シンジェンタ・ジャパン(株)、住友化学(株)、日産化学(株)、日本農薬(株)、バイエルクロップサイエンス(株)、丸和バイオケミカル(株)、三井化学アグロ(株)、(株)MMAG、(株)電算システム

大森理事長、中村 IT 広報委員長、鈴木参事、植草副参事

I. 開会挨拶（全国農薬協同組合 理事長 大森茂）

II. 2022 年度事業概要報告

- ① 全農薬受発注システムの利用状況について（組合員）
- ② 全農薬受発注システムを通じた物流（数量・金額）について
- ③ 製品・チラシ ポータルへのアクセス数
- ④ 受発注センターの 2022 年度活動実績（電算システム）

III. 全農薬受発注センター 2022 年度活動報告について

- ①新規メーカー様ご利用に向けての利用促進活動・サポート
- ②新規組合員への利用開始までのサポート
- ③既存組合員の基幹システムリプレースのサポート
- ④既存組合員の合併・部門追加のサポート
- ⑤メーカー個別情報交換会の実施 2022 年 11 月～
- ⑥メーカー様間の販売移管のサポート
- ⑦システム機能改善・拡充
- ⑧システム運用については、重大なトラブルなく安定運用

IV. 全農薬受発注センター 2023 年度活動計画

- ①新規メーカー様ご利用に向けての利用推進活動・サポートの実施
- ②組合員へのアプローチ
- ③システム機能改善・拡充

V. その他

- ①メーカー情報交換会の総括について
- ②電子帳簿保存法の改正に対する受発注システムの対応方針について
- ③組合員様へシステムの各機能のご活用について（お願い）
- ④商品マスタの JAN コードについて
- ⑤メーカー各社様からの要望事項について

VI. 閉会挨拶（IT・広報委員長 中村哲郎）

関係団体からのお知らせ

1. 農薬工業会 2023 年賀詞交歓会開催のご案内

農薬工第 2022-206 号

2022 年 11 月 28 日

全国農薬協同組合 殿

JCPA 農薬工業会

会長 本田 卓

2023 年賀詞交歓会開催のご案内

謹啓 初冬の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当会の事業に格別のご指導、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当会恒例の賀詞交歓会を下記のとおり開催いたします。日頃のご教導に感謝申し上げますとともに、新たな年に向けた躍進の糧といたしたく、ご多忙とは存じますが、ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

敬白

記

日 時：2023 年 1 月 5 日(木) 12 時 30 分から 13 時 30 分まで

受 付：12 時より

場 所：経団連会館 2 階「経団連ホール」(案内図ご参照)

千代田区大手町 1-3-2 電話 03-6741-0222

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、「参加人数を会場定員の 1/2 に縮小し、立席形式・飲物のみ（食事なし）、1 時間に短縮」して行います。

以上

(参加申し込みはすでに終了しています。)

2. 全国肥料商連合会「令和5年合同賀詞交歓会」開催中止のお知らせ

令和4年12月1日

各 位

全国複合肥料工業会

会長 山本 英夫

一般社団法人 全国肥料商連合会

会長 山森 章二

令和5年全国複合肥料工業会と一般社団法人 全国肥料商連合会との
合同の講演会及び新年賀詞交歓会の開催中止のお知らせ

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、来年（令和5年）1月18日（水）に開催を予定しておりました全国複合肥料工業会と一般社団法人 全国肥料商連合会との合同による講演会及び新年賀詞交歓会は、多くの参加者の方々の交流を深める場として計画をしておりましたが、新型コロナウイルスの第8波が令和5年1月10日頃をピークとして感染が拡大傾向にあり、インフルエンザも同時に流行するとの予測もありますことから、令和5年につきましても、開催を見送りとさせていただくことといたしました。

ご参加を予定されていた皆様には大変申し訳ありませんが、ご理解の程よろしく申し上げますとともに、関係各位に本件を周知して頂ければ幸いです。引続き、全国複合肥料工業会と一般社団法人 全国肥料商連合会の活動にご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

行政からのお知らせ

1. 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

令和4年8月31日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
農薬対策室 課長補佐（農薬検査班担当）

食品衛生法施行規則の一部を改正する省令及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

このことにつきまして、別紙のとおり令和4年8月30日付け生食発 0830 第1号厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和4年厚生労働省告示第256号）により、下記の申請に係る農薬の残留基準値が設定又は変更されました。

記

エトキサゾール（パロック）
トリフルミゾール（トリフミン、クリアパッチ）
1-ナフタレン酢酸ナトリウム（ターム、アークランド、ヒオモン）
フロメトキン（ファインセーブ）
ペルメトリン（アディオン、エンバー等）
ベンタゾン（バサグラン）
メトミノストロピン（オリブライト、イモチエース、オリザトップ）

2. 食品衛生法施行規則の一部を改正する省令、食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件及び食品衛生法第 13 条第3項の規定により人の健康を損なうおそれがないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質の一部を改正する件について

令和 4 年 10 月 31 日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
農薬対策室 課長補佐（農薬検査班担当）

食品衛生法施行規則の一部を改正する省令、食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件及び食品衛生法第 13 条第3項の規定により人の健康を損なうおそれがないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質の一部を改正する件について

このことにつきまして、令和4年 10 月 26 日付生食発 1026 第1号厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和4年厚生労働省告示第318号）及び食品衛生法第 13 条第3項の規定により人の健康を損なうおそれのないことが明らかであるものとして厚生労働大臣が定める物質の一部を改正する件（令和4年厚生労働省告示第319号）により、下記の申請に係る農薬の残留基準値が設定又は変更され、対象外物質に追加されました。

記

アフィドピロペン（インスカリス）
シアントラニリプロール（ペリマーク、ベネビア、エクシレル、プリロツソ等）
シフルトリン（バイスロイド等）
テトラニリプロール（ヨーバル）
ピコキシストロビン（メジャー）
フルフェノクスロン（カスケード）
ペンシクロン（モンセレン、セレントーフ）
アブシシン酸（アブサップ）

3. 食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

令和4年11月24日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課
農薬対策室 課長補佐（農薬検査班担当）

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について

このことにつきまして、令和4年11月22日付生食発1122第1号厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官通知が出されましたので、お知らせします。

食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件（令和4年厚生労働省告示第337号）により、下記の申請に係る農薬の残留基準値が設定又は変更されました。

記

エトフェンプロックス（トレボン、アークリン）

テトラコナゾール（ボンジョルノ、サルバトーレ、ホクガード）

フェンピロキシメート（ダニトロン）

フルエンズルホン（ネマショット）

フロラスラム（ブロードスマッシュ）

全農薬ひろば

ニホンスイセン（日本水仙、学名：*Narcissus tazetta* var. *chinensis*）

ヒガンバナ科・スイセン属耐寒性多年草（球根植物）である。本州の関東地方以西、四国、九州の海岸に野生化している。

○形態・生態

花期は、12月～2月頃。花は3～4センチ程の小輪、花びらは白で副花冠は黄色のカップ型、房咲きが特徴。葉は緑色、細長く線形で、やや厚みがある。葉は、粉白を帯びたような緑色。帯状で細長くやや厚みがあり、長さ20～40cm、幅0.8～1.5cm程度。

花の香りは、爽やかで、すっきりとした甘さがある上品な香りを漂わせる。香気成分はリナロール、ベンゼルアセテート、フェネルプロピルアセテートなどを中心に構成され、ヒヤシンス、ジャスミン様の香りに近い。



○名称

水仙の名は、水辺に育ち仙人のように寿命が長く、清らかなという意味から名付けられたとされる。また、属名である *Narcissus* という学名は、ギリシャ神話に登場する美少年ナルキッソスに由来する。池に映った自らの姿に心酔しているナルキッソスを女神ネメシスがスイセンの花にした神話より、ナルシストの語源。

○毒性

水仙は、全草に有毒成分が含まれている。葉はニラ、ノビルによく似ており、鱗茎はタマネギと間違えやすいので、誤食に注意が必要。毒成分はリコリンやタゼチン、ガラントミンのアルカロイド類とシュウ酸カルシウム。鱗茎に特に毒成分が多い。スイセンの致死量はマウスで10.7g/kgで、食中毒症状と接触性皮膚炎症状を起こす。



（一部 Wikipedia より引用）

撮影場所：藤沢市

花言葉：『うぬぼれ』『自己愛』

